

DX デザイン思考 アイデア創造フレームワーク②

DX デザイン思考とは何か？

「いかに成果を出す事。それを最大化する事」実務者として、日々皆さんの中心にあるのはビジネス思考です。可能な限り、業務を効率化し、コストを削減し、狙ったゴールに最短で辿り着く事を求められます。ここでは、DX デザイン思考を理解いただく為に、アイデア創造のフレームワークに関して解説します。

ビジネス思考とDX デザイン思考は違う

ビジネス思考は、狙ったゴールに最短で辿り着く為に、企業や業界の常識をベースに、最短で間違いが無い様に、ご自身の勘や経験、データ等を駆使し実践します。一方で、DX デザイン思考とは、そもそも、答えのない問いを探し設定し、問題解決やアイデアを創出する為に多様な人々のアイデアでアプローチしデジタルを適用し解決する思考です。故に、初期の段階では大抵行き詰りの状態に陥ります。右往左往しながら、脱却するために試行錯誤を重ねる事で道が開けるのです。そして、常にそこにはモヤモヤ感やストレスがあります。その際、実装すべきは突破する為のフレームワークです。



フレームワークとは、日本語では技法として表現をされます。答えに効率的にいき着く為に、考えを整理しやすいように図式化し、それに沿って情報や考えを整理し、新しい発想や状況分析を効率よく行う事で、用途や状況に合わせて活用します。いくつもの種類があり、多くは複数のフレームワークを併用して活用します、1つのフレームワークを使ったり、複数のフレームワーク使ったり、柔軟に変え何度でもアイデア創造をします。

その際に、見直しの起点となるのが、過去のワーク結果や気づき(インサイト)になります。インサイトとは、気づきや洞察とも言われます。相手の視点に立って相手のことを考えたときに相手がどのように思っているのかというツボ、スイッチ、視点のことを意味します。インサイトは常にアイデア発創の基軸となります。そこを起点としながら、何度も方向転換(ピボット)を繰り返します。

アイデア創造フレームワーク

ここでは、アイデアを創造する際に、有効的なフレームワークを解説します。(出典参考情報:文部科学省 イノベーション対話ツール)

アイデア創造フレームワーク

フレームワーク名称：バリューグラフ

フレームワーク全体像

あるアイデアや、製品・サービス、コンセプトや機能など、検討する対象の目的・価値(バリュー)とその実現手段を求め、これらを構造的に表す手法です。バリューグラフは、検討対象の上位の目的や価値を表す上部と、具体的な実現方法を表す下部に分けられます(以下の図は、ワークショップで上部を実施した例です)。この上部を指して「バリューラダー」と呼ぶこともあり、イノベーション創出の初期段階では、主にこの上部を活用して解空間を広げることが有効である。



バリューグラフ
Value Graph

フレームワークの目的

1. 主目的 : 思考の収束 共感 相互理解
2. 2次目的 : 思考の発散

フレームワークの狙い

1. 目的や価値が構造的に見える化され発想が広がる
2. これにより、より創造的な発想が促される
3. 上位の目的・価値や代替案を俯瞰してインサイトを得る
4. 次に掘り下げるべき「目的・価値」や「代替案」の発見とそれらに対するアクションの特定

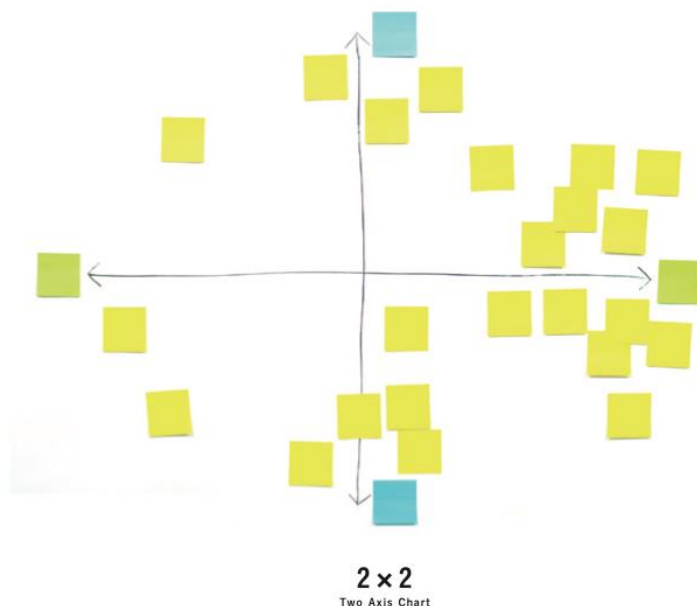
フレームワークの活用シーン

1. 検討する対象の「そもそもの目的や価値」を明らかにしたいとき
2. より広い解空間の中で代替案を模索したいとき
3. 検討対象の目的や価値に対する多様な参加者の合意形成をしたいとき

フレームワーク名称: 2X2 (2 軸図)

フレームワーク全体像

2 軸図は縦軸と横軸をつくり、アイデアをグループ毎の主観で、プロットすると共に、アイデアの数を可視化するツールです。ポストイットをただ 2 軸図上に、マッピングするだけではなく、グループワークで可視化しながらアイデアを整理・分類し、インサイトを抽出したり、イノベティブな機会領域を発見するためのフレームワークです。



- フレームワークの目的
 1. 主目的 : 思考の収束 共感
 2. 2次目的 : 相互理解

- フレームワークの狙い
 1. 四象限における配置の偏りなどを見て、生じる気づきや疑問など、次に掘り下げるべき事柄(目的)の発見とそのためアクティビティの特定。
 2. 既存の思考の枠を認識することにより、思考の枠の外側(out of box thinking)へ出ようとする意識。

- フレームワークの活用シーン
 1. 既存のアイデアを構造化して、そこからインサイトを得たいとき。
 2. 2軸を置く事で新しい切り口を発見し、そこから新しいアイデアを発想したいとき。

今回は、バリューグラフと2X2(2軸図)を解説しました。是非、皆様も参考にされて問題解決やアイデア創造に取り組んでみてください。きっと、お役に立てるはずです。

本件に対するお問い合わせは、下記の連絡先までお願い致します。

デジタルサーフ株式会社

153-0063 東京都目黒区目黒 2-11-3 1階

charlie@digitalsurf.net 担当 / 飯盛